

天気の著者などの表示形式の改善についての提案

二 宮 洸 三*

世界では多くの気象学の学術誌が刊行されている。日本気象学会では、和文誌の天気、気象研究ノート、欧文誌の気象集誌 (Journal of the Meteorological Society of Japan, JMSJ)、電子版欧文誌 SOLA が刊行されている。

多くの欧文誌では、表題の下に著者名・所属が記され、次の行に論文の受取日と最終稿受取日が書かれている。最初のページの下段の脚注に corresponding author の氏名、所属、郵便アドレス、メールアドレスが記されている。

JMSJ および天気の英文タイトル・要約でも、上記の国際的標準の記載形式が採られている。

しかし、天気本体の日本語ページでは、表題の下には著者名のみが記載され、下段の脚注に所属と受領日・受理日が記されている。論文・報告にとって重要な受領日は本来脚注に書くべき事項ではない。

そして、責任著者 (corresponding author) の郵便

アドレス、メールアドレスの記載がない。英文タイトル・要約が付かない記事では、著者の郵便アドレス・メールアドレスを知ることができない。

これでは、著者に郵便、メールでお訊ねし、追加的な御教示をお願いしたい時に不便である。特に、リタイヤされた名誉教授や無所属の著者にお聞きしたい時に大変不便である。

天気としての慣例や、あるいは個人情報管理の配慮があるのかも知れないが、慣例は惰性に過ぎず、個人情報の記載は欧文誌では全く問題になっていない。

特段の問題はないはずであり、天気の著者、所属、原稿受理日、脚注の責任著者の所属・郵便およびメールアドレスの記載形式は国際標準に準じて欲しい。これは天気の論文・各種報告についての、学会会員のコミュニケーションの便利向上に必要な改善 (しかも、経費増を伴わない) である。天気編集委員会のすみやかな対応をお願いする。

* Kozo NINOMIYA (無所属).

knino@cd.wakwak.com

© 2012 日本気象学会